



千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会 広報紙
く ひら

暮らしを拓く



「グループホームの未来に向けて」

仙台市グループホーム連絡会 副会長 横谷聡一

(社会福祉法人みんなの広場 理事長・日本グループホーム学会 副代表)

5月1日午前、宮城県を震源とする震度5強の地震が発生しました。その時、私はオンライン会議中だったのですが、宮城にいる私の画面が大きく揺れ、収まった後に関東の参加者から「揺れ始めた!」との声が上がりました。テレビ速報を見ると各地の震度結果を図式化で目にするのはあっても、地震の揺れは震源から遠方まで影響することを体験し、これまで考えなかった視点で見るようになったこともオンラインが増えたことで実感することが多々あります。

東日本大震災10年の節目となる3月、宮城県は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の重点区域に指定されました。グループホームでも感染予防と自然災害への対応も考慮していく必要がある中、千葉県障害者グループホーム大会の第2分科会「グループホーム従事者のメンタルケア with コロナ」でのディスカッションで話し合った際の『セルフメンタルケア』の視点は現場に必要不可欠だと思うようになりました。

どのように視点を向けるか?で、ストレスが大きく違って見えるということがよくあるからです。例えば、新型コロナ感染症の影響で外出自粛が求められておりますが、その影響もあってか、自然を彩る季節の花がいつもの季節より鮮やかに見えることもありました。

グループホームの全国のご入居者は14万人となりましたが、世の中でステイホームと言われるように、ご入居者の方も感染予防のためステイグループホームで過ごす時間が多くなりました。

現在、私の地元の仙台市には「仙台市グループホーム連絡会」があり、主な活動としてグループホームの支援の質の向上を目的とした研修が開催されております。宮城県内障害福祉施設(グループホームを含む)を対象に新型コロナウイルス感染症防止対策「相談窓口」を開設中の宮城県看護協会より講師を派遣していただき、ゾーニングの考え方、クラスター発生時の対応、感染予防マニュアルについての学ぶ機会や、現場の実践に精通する福祉関係者より「BCP(事業継続計画)」のお話をいただく機会がありました。困っていること、もっと知りたいことがある不安や心配が募る時ほど、視点をどう持つかということが大切になるのだと実感することが多くあります。

この連絡会の立ち上げの原動力には、千葉県障害者グループホーム大会に毎年参加させていただいたことが大きな励みとなりました。それぞれのグループホームがずっと孤立無援のような状態を震災の時に感じました。今はどうか?そう考えた時、たんぽぽの綿毛が窓の外一面に広がり、思いました。未来の人達が必要となる情報が、「今」ではないのか?

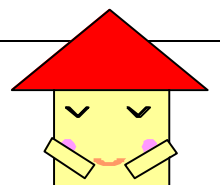
コロナも災害だと思います。10年前の東日本大震災の瞬間、人の命を想った、その気持ちはコロナ禍にある今も、あの当時からも現在進行形なのだと心から思う毎日です。

「千葉県障害者グループホーム等支援事業活動、支援ワーカー紹介」

支援ワーカーは千葉県障害者グループホーム等支援事業の、委託事業として配置されています。事業の円滑な運営のために、受託法人は「千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会」を結成しています。協議会に支援ワーカー部会があり、①研修班（支援ワーカーのスキルアップを図るための研修計画）②広報班（GH等を取り巻く資源の情報発信）③イベント班（普及啓発のGH講座・大会等の企画）の体制で活動しています。

習志野圏域	森井 真理	今年度より GHW になりました。習志野圏域のみなさんの笑顔をたくさん見れるよう頑張りたいです。よろしくお願いいたします。
市川圏域	岩崎 淳 (支援ワーカー副部長)	GHW 2 年目の未熟者ですが、今年は昨年得た情報や知識、人脈を精一杯活かし、関係機関と積極的に連携しながら、障害のある方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう努力します。
松戸圏域	小林 義典	障害者に限らず社会の中で生きづらさを感じている人が、地域で自分らしい生活が送れる為に GH は大きな役割を负っています。今までの枠を超えた GH の新しい役割を創出していけるよう尽力して参ります。
野田圏域	上野 友和	GHW は初めてなので右も左もわからない状態ですが、早く支援を必要としている方のために活躍できるよう、そして頼れる GHW になれるよう精進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。
印旛圏域	柿原 照明	これまで高齢者支援に携わってきました。障害福祉サービスはまだ勉強中の身ですが、GH に関わる皆様と一緒に、利用者のことを思い、豊かな暮らしを作る活動をしていきたいと思ひます。宜しくお願いします。
香取圏域	青谷 亮介	4 月より GHW に着任することになりました。 一所懸命に、業務を覚え、入居者様と関係者の皆様の力となれるように頑張っていきたいです。よろしくお願いいたします。
海匝圏域	林 弘志	今年で GHW 5 年目となりました。まだまだコロナウイルスの感染状況に不安が残りますが、入居者の皆様が笑顔で過ごせるよう、また事業所のお力になれるよう頑張りたいと思ひます。
山武圏域	宇井 菜那 (支援ワーカー副部長)	ワーカー業務 2 年目となりますが、まだまだ勉強不足を日々実感しております。引き続き皆様からのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。
長生・夷隅圏域	金沢 千絵	今年 GHW 2 年目、各 GH を支える活動と入居希望者や入居者の相談、各機関との連絡調整など今年も頑張りますので宜しくお願い致します。
安房圏域	鈴木 美絵	2 年目になりますが、初めて学ぶことが多く、まだまだ勉強中の毎日です。少しでも皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。
君津圏域	片岡 健悟	昨年度 1 月からの新人です。入居者の方の“気持ちに寄り添う”を大事に頑張っ参ります。GH に関わる皆様の「良かった」の声であふれるよう、努力していきますので、よろしくお願いいたします。
市原圏域	相川 大祐 (支援ワーカー部会長)	今年度で 7 年目を迎えましたが、初心を忘れることなく、GH での生活を通して入居者が自分らしく生活出来る環境を、地域の皆様と一緒に創っていききたいと思ひます。

今年度は、この 12 名で協力し合いながら千葉県内 GH を支える活動をしていきたいと思ひます。
よろしくお願いいたします。



第44回千葉県障害者グループホーム講座

様々なグループホームのかたち～現在の暮らしとこれから必要なこと～報告

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）拡大防止のため、今回はY o u t u b eを活用して2月15～23日まで、動画配信の形式で開催しました。

「様々なグループホームのかたち～現在の暮らしとこれから必要なこと～」をテーマに、障害の重度化・高齢化、自然災害や感染症への対応など、グループホーム（以下 GH）が現在抱えている課題に対して、支援者はどのように対応し苦労しているのかを、参加者と共有する講座としました。

まず始めに、ソーシャルインクルー（株）ソーシャルインクルーホーム千葉あすみが丘東 施設長 小川祥幸氏。ゆり庵（株）GH 白菊・以心・伝心 施設長 柿沼俊氏より、各事業所の実践発表がありました。

小川氏からは、日中サービス支援型 GH の紹介があり、日中活動に多く参加出来ない方や車椅子を利用している方など、支援が困難である方々に対して、病院や買い物への同行、職員を常時4名以上配置し食事・健康管理の支援をしている。一番大事にしていることは、一人ひとりの意思を大切に支援していると話していました。

柿沼氏からは、障害種別に限らず様々な方を受入れ支援をしているなかで、入居者同士の関係が上手く築けない方、新型コロナの影響で外出制限されストレスコントロールが上手く出来ない方などに対して、職員が一人ひとりに付き添って外出支援をするなどの支援をしていると話していました。

両者ともに、一人ひとりに寄り添った支援を法人全体で心掛けていているというのが伺えましたが、実践発表後のトークセッションでは、自然災害や感染症対策など1つの GH では対応出来ることに限界があるため、地域のネットワーク作りや協力体制が必要であると話されていました。今回の新型コロナの影響により、地域との繋がりが少なくなったが、GH から地域に歩み寄り関わり続ける姿勢が必要なのではとの話も出ました。

入居者支援や地域作りなど課題がたくさんあるが、一つひとつに向き合って取り組んでいく姿勢が重要であることを確認した講座となりました。



今年度のグループホーム等関連イベント

8月	グループホーム新規開設セミナー（動画配信）
9月	第45回グループホーム講座開催（予定）
10月	第46回グループホーム講座開催（予定）
12月	第47回グループホーム講座開催（予定）
2月	第13回グループホーム大会（動画配信）
3月	第48回グループホーム講座開催（動画配信）

※新型コロナウイルス感染症や災害等により、予定が変更になる場合がございます。決まり次第、随時お知らせします。

※イベントについては感染拡大を防ぐため、動画配信等になる場合がございますのでご了承ください。

き ど あ い ら く 起 努 逢 楽 のコーナー

『起業する努力、出逢いがあって楽になる』障害者グループホーム等支援ワーカーは新規開設のお手伝いをします！
また開設後の応援もしています！



「ソーシャルディスタンス」「三密」「テレワーク」等々、新型コロナウイルスの影響は生活様式を一変させるだけでなく、人間関係の在り方や気持ちの持ち方までも変えています。障害者グループホーム等支援ワーカー（以下 GHW）として何ができるのか、2年目の春を迎えた中、日々突き付けられている課題でもあります。

例えばグループホーム（以下 GH）を探してほしいという一言でも、その背景にどのようなことがこれまであったのか、どのような理由があり GH というサービスを選ぶに至ったのかを思い巡らし、お話を伺う姿勢は変わりません。それでも、これまでの積み重ねが「コロナの影響で」の一言で分断されてしまった話がやはり多かったように感じています。

GH の開設相談についても同様に「これまでの仕事がコロナの影響でなくなってしまい、自身の持ち家を GH にしたい」というご相談を受けたこともあります。日頃、開設についての説明をするにあたり、どのような GH を作りたいのか・ご自身が想定している入居者とどのような生活をしていきたいか等々、思いや理想を形にしてわかるようにしてほしいと説明します。

入居者との生活は生涯に伴走することだと思っています。苦楽を共にするだけでなく、仮に入居者の状態やライフスタイルが変わってもなお、その方の生活の充実を得られ続けることができる、たゆまない工夫と努力が支援者に問われる資質であると思います。

充実した生活とは人それぞれに価値観があります。昨今、GH に求められていることは、安心・安全な暮らしだけでなく、その人らしくありのままでいられる場の提供です。

生活をともに創っていくなかで、今般の世情はやりきれなさを感じることも少なくありませんが、昨年度 GHW が企画した研修では「少しでも入居者・支援者が前を向ける研修」を考え実施してきました。今年度も引き続き、GH に関わる皆様へ明るい兆しになれる取り組みや支えになるべく努力してまいります。

山武圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 宇井 菜那

山武圏域概況（令和3年4月1日現在）

事業所数：19 事業所 定員数：393 名 ホーム数：82 住居

編集後記

新型コロナウイルス感染症の蔓延が収まった後、一番したい事は何？と尋ねるアンケートが新聞に掲載されていました。ダントツの一位は

【旅行】で、GH の管理者からも入居者との外出がとても待ち遠しいとの声が出ていました。皆様が気兼ねなく外出出来るその時まで、一緒に乗り越えていきましょう。



発行者 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

事務局 海匝圏域障害者グループホーム等支援ワーカー

旭市ロー838

（社会福祉法人ロザリオの聖母会 海匝ネットワーク内）

編集担当

長生・夷隅圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 金沢 千絵